



年頭の今号は、岡田浩先生のエッセイ、ウィークエンド・ロースクールの報告に加え、4年生からの就職活動体験記の寄稿の3編。真面目な感じのスタートです。

### ◆◆教員エッセイ◆◆

### 第 37 回 岡田浩先生（投票行動論）

昔の日本映画が好きで、10年ほど前に子どもが生まれて子育てで忙しくなる前はよく見ていました。特に黒澤明の映画が好きで、全30作をDVDで持っています。その中でも、「生きる」という映画は何度も見て、私の人生に大きな影響を与えています。

ストーリーは、それまで、のんびりだらしなく仕事をしていた市役所の課長が、自分が病気で余命がわずかだと知って目が覚め、残された時間で何をすべきか模索した結果、市民からの陳情にあった子どもたちのための小さな公園をつくるという目標を見出して奔走し、完成させて亡くなる、という話です。

この映画は、山のような書類にひたすらハンコを押すシーンや、市民からの陳情を管轄が違うからと部署間でたらいまわしにするシーンなどが多く描かれており、役所の非効率や無責任さを皮肉った映画として取り上げられることもあります。私は、タイトルどおり、生きる意味を問う映画として受け止めています。

この映画の課長さんが公園を残したように、この世に生まれてきた以上、何か意味あるものを残したい、何か爪あとを残したいと、この映画を見るたびに思い、漫然と時間を過ごしてしまっていることを反省します。私は、なんとなく定年退職まで、あるいは平均寿命までまだ時間があると思ってつい安心してしまいがちなのですが、映画の課長さんのように突然それが断ち切られるかもしれず、残された時間がどれだけか本当のところは分かりません。

映画の課長さんは公園を残しましたが、人によっては、それは、子どもを立派に育て上げることであったり、人に役に立つサービスや商品を残すことであったり、組織を良くすることであったり、いろいろでしょう。私にとってのそれは、研究者として、自分の研究分野においていつまでも引用され続けるような後の世に残る本や論文を執筆することであり、教員として、学生たちにいろいろな意味で将来役に立つことを教えて、その人生が良いものになることに貢献することです。

たまにはこの映画を見て喝を入れてもらいながら、残りの人生をポーっと生きないよう頑張りたいと思います。

### 法学類ウィークエンド・ロースクールを開催して

#### Current News 最近の出来事から

「ウィークエンド・ロースクール」は、公認サークル「金沢法友会」における法教育の研究と実践の活動をベースに、学生主導型の高大接続プログラムとして企画し、10月から毎月1回合計4回開催しました。

高大接続と聞くと、昨今とかく話題になることの多い入試改革しか想像できないかもしれませんが、「ウィークエンド・ロースクール」は、もっと実質的な中身のある高大接続の場を作ることを目指しました。プログラムを主導した学生は、ふだんの法学学習の成果をふまえ、グループワークをふんだんに取り入れた教材を作成して、これをもとにしたセミナー

を高校生に提供しました。参加された高校生にとっては、ふだん身近に接する機会の少ない大学生と親しく交流し、大学生と一緒に法的な思考を体験することで、法の基礎にある原理・原則を理解する機会となったようです。

今回は初めての試みということで、参加者は各回 10 名から 20 名程度にとどまりましたが、複数回参加された熱心な方もおられました。参加された皆さんが、この機会に法・法学に関心を深めて、法学を専門に学ぶ道を選択され、あわよくば法教育の実践にもコミットしていただければ、とてもうれしく思います。



(金沢法友会顧問・福本知行)

## 「広い視野を持って」

私は元々公務員を目指しており、金沢大学入学後も多くの先輩が公務員を目指すのを見て、自分もいずれは先輩方と同じようにと思っています。流れに身を任せるように3年生からは公務員講座を受講し、着々と公務員試験に向けて準備を始めました。

そんな中、自己分析をきっかけに自分の原点を探り、子供の頃から憧れていたある企業にやはり惹かれていることに気づきました。少し大袈裟かもしれませんが、「就職活動は夢を叶えるチャンスなのではないか」とふと思ったのです。ならば、ここで受けなければ一生後悔すると思い、公務員試験と並行してその民間企業1社だけは挑戦してみることに決めました。

秋からは、金沢で公務員講座を受けつつ、愛知での説明会に出席するなど、両立は体力的にも精神的にも厳しいものでした。民間企業の長期インターンシップにも参加し、他大学の学生とグループ発表を行うという課題に取り組みました。メンバーは各地ばらばらで直接集まることはできません。そこで公務員講座の合間をぬい、通話アプリなどを駆使して話し合いを進め、発表をまとめ上げました。

インターンシップ終了後、社員の方々と面談では、特に「なぜ公務員との併願か？」という質問は何度も受けました。たった1社を志望

していることでこの企業に対する並々ならぬ思い、覚悟を示せたと思います。

その結果、運が良いことに目指していた民間企業から内々定をいただくことができました。民間企業の内々定を承諾すれば、公務員試験の結果を待たずして就職活動が終了します。1年間公務員講座を頑張ってきたのに、就職活動を終えてしまってもいいのだろうか。親に相談すると「行ったところがお前にとって一番いい所。そこで一生懸命頑張ればいい。」と言ってくれました。この言葉に背中を押され、民間企業の内々定を承諾することに決めました。大きな選択でしたが、昔から憧れていた企業が自分に声をかけてくださったことが何より嬉しかったですし、これに後悔はありません。

振り返ってみれば、公務員試験と民間企業の両立は、苦労もありましたが、自分の納得できる選択ができたと感じます。皆さんは、この道しかないと思い込んではいませんか？周囲や自分自身の先入観で、自分の可能性が見えなくなっているかもしれません。思い込みにとらわれずに、いろいろな選択肢を検討してみてください。

法学類4年 K. N.



法学類P  
ハGO!



- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>  
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部 学生課 ([n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp))までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。